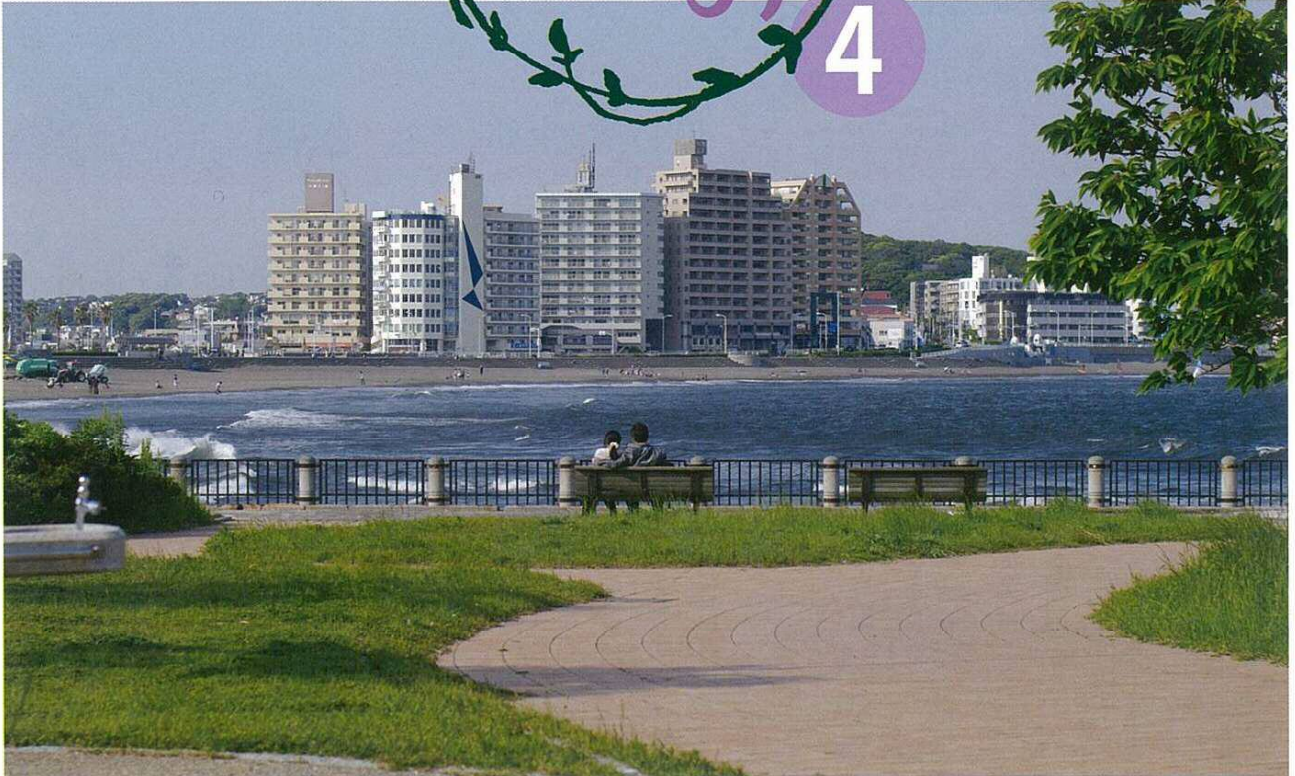


南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成25年
4月号

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



初心

入学式の季節である。この季節になると当時の自分のことが思い返される。新しい環境に対する不安と期待を胸に抱き、いいようのない緊張感があつたのを覚えている。東京に来た当初、右も左もわからず、戸惑いや不安から電話応対ひとつにしても緊張しながら対応していた。しかしその中に、初めて経験することへの新鮮さを感じていたのも事実である。

以来早四年が経過した。先輩方に教えられながら経験を積み重ねてきた。苦手だった電話応対もある程度余裕を持つて対応できるようになってきた。今の環境に慣れてきたのである。

不安や緊張が和らいできた反面、当時感じていた興味や新鮮さも薄らいできている。環境に順応していくことは、どのような生物にとっても、生きていくうえで必要不可欠なことである。しかし、その慣れた環境に腰を下ろし、新鮮さを忘れて当たり前のように日々の生活をしているのではないだろうか。

四月を迎え、新しい一步を踏み出す方々のすがたを通して、自分によびかけられている。東京に来た当時の初心は、さらには自分がどのようないのちをいただいて生まれしてきたのか、そしてどう生きていくのかということ。

人に会い基に会う

宇佐美 太郎 さん



今回は囲碁インストラクター兼フリーライターをされている宇佐美太郎さんにお話を伺いました。

◆遠藤さんとの出会い

もともとは、ずっと文章を書く仕事をしたいと思っていました。大学時代のある日、知人から碁会所を紹介されて、席亭(碁会所のオーナー)の遠藤さんと出会いました。遠藤さんからは囲碁や将棋を「太郎ちゃん、ここはこうだったね」と教わったり、夕食をご馳走してもらったり、「太郎ちゃん、こんなだよ人生は」って話してくれました。おかげで学校帰りに毎日通いましたね。

◆ライターを通じて

大学を卒業して、一般企業に就職したんですけど、やはり物書きになりたくて退職しました。その時に偶然囲碁の仕事をしている人に出会って、だんだんと囲碁教室の仕事をしていただきました。

◆囲碁の魅力

囲碁はこうしたら勝ちというものではなくて、家を建てるようなもの

のだと思っています。出来た家の大きさで勝ち負けを決める感じですね。そうすると土台作りが大事になってきて、どう取り組んだらいいのかと考えることが楽しいです。

囲碁の勉強の一つに棋譜並べ(打ち碁を自分で並べ直す事)があります。その時に、自分だったらこうするの、何でここに打つんだろうと悩む時があります。いくら自分で考えてもわからないので、人に聞くようにしています。すると、実はその一手が時間つなぎで打った悪手だったり、反対に意味を持つ場合だとわかったり……とても奥が深いです。さらに、悪手がきつかけで相手がミスをする事もあるので、そういう駆け引きが面白いです。

こうやってライターの仕事をしながら囲碁の仕事に携われたのは遠藤さんに出会えたからだと思っています。もう九十近いお歳になっているので、また一度会いに行かないかと思っています。

(聞き手 高橋 淳)



なんで? 「花まつり」

四月八日はお釈迦さまがお生まれになった日です。灌仏会と呼ばれる法要が営まれてきました。一般的には花まつりとして親しまれています。ご誕生を祝うのは、私達と同じ生老病死の人生を歩まれたということにほかなりません。

また、お釈迦さまご自身が老病死の人生に苦悩し、その生涯をもって生きる意味を訪ねられました。そして憂うべき老病死の生涯を輝かせる阿彌陀の本願にであったのです。本願とは障りが重く自ら目覚めることが不可能な私達を必ず救うという誓いです。その誓いはたらきを明瞭にしてくださいました方がお釈迦さまなのです。

目先の損得に目を奪われながら生活をする私達は、お釈迦さまの教えに触れて、初めて阿彌陀仏のはたらきに出遇えるのです。

その深い報恩感謝のこころによって今日まで花まつりとして営まれてきました。

(山崎 哲記)

ここにいう「摂取」は、阿弥陀仏がわたしを摂め取って、救ってくださる事です。摂(おさ)め取って救ってくださるといって、すぐ理想がかなうことだと思いますが、わたしの理想がかなえば、周囲に困る人が増えるだけです。それで、「摂取」は、「心光」、阿弥陀仏の大慈悲心の光、智慧によって救われるといわれます。仏の明るい智慧の光は、自分中心の暗いわたしには見えませんが、人はみな「摂取の心光」のなかにあるといわれます。だから、摂取の光の中にある今を感じて満足すればいいのですが、今の自分をただけでないから、不満と不安の連続になります。

それで、親鸞聖人は、「十方微塵世界の念仏の衆生をみそなわし摂取してすてざれば阿弥陀となづけたまつる(『浄土和讃』)」と、すべての世界は阿弥陀仏の光のうちに摂め取って捨てないから、お念仏をいただければ、そのかたじけなさを身いっぱい感得することができるといわれます。ところが、聖人は、このご和讃の摂取の左訓で、「摂はものにくるを追え取るなり」といわれます。つまり、摂取の心光は、阿弥陀仏の摂取におまかせをするわたしを照らすとい

う話ではなく、摂取の中にある事実を目を背けて、そこから逃げるようにしているわたしを見いだすところに輝くといわれます。

そして、その心光のはたらきは、



正信偈の話(20) 松井憲一
摂取心光常照護 己能雖破無明闇
(摂取の心光、常に照護したまう。己に能く無明の闇を破すと雖も、)

を護るものではありません。若く見え、健康になることを望んでも、「何を塗り何を飲んで 年は取る」といように、道理を曲げて護られることはありません。親しい人であっても、病氣見舞いに行

けば「病室に嘘とメロンを置いてくる」のが、わたしであります。このような、自分に気づかない愚かさを、常にまるごと照らし破って、護ってくださいののです。

だから、『現世利益和讃』には、「念仏のひとをまもるなり」「眞実信心をまもるなり」といわれます。天地の恵みまでも忘れて都合頼み

をして、自分自身からも逃げているわたしが、たまたまお念仏に出遇えたことを護ってくださいののです。聞法を通して、ようやくうなずけた賜りたる信心を護ってくださいののです。

それで、「まもるといっては、異学異見のともがらにやぶられず、別解別行のものにさえられず(『一念多念文意』)」といわれます。つまり、状況の改善を求めて情報を集めれば事態が好転すると思いい、その道を切り開くには努力しかないとする自己過信の誘惑に、もはやさまたげられることはないといわれます。

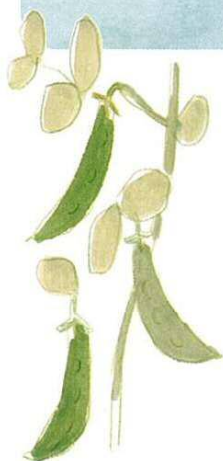
それで、聖人は「摂取心光常照護」を解説して、「摂取心光常照護といふは、信心をえたる人を無碍光仏の心光、つねにてらしまもりたまうゆえに、無明のやみはれ、生死のなきよ、すでにあかつきになりぬとされるべしとなり。己能雖破無明闇といふは、このころなり。信心をうればあかつきになるがごとしとするべし。『尊号眞像銘文』」といわれます。

「一寸先は闇」をもじって、「一寸先はお悔み」といった人がいます。無明の底に沈んでいることもわからずに、ああなれば善いこうなれば悪いと、生きてきたのではないでしょう。その迷いのありかたを知らせて根っこから破るのが、わたしの心を内から照らす「摂取心光常照護」であるといわれるのです。

山門の言葉

一生は尽くといえども
希望は尽きず

『往生要集』



南無阿弥陀仏の教えは、この私がどのような在り方をしていくかを照らし出します。その身に目覚めることを信心といわれます。

普通、自覚という、自分で自分を知ることのように思いますが、知らされてはじめて知ることを自覚といわれます。

しかし、私たちは自分のことは教えられるかも知っているつもりでいるのです。

ところが、何か不都合なことが起きてしまうと「どうして」「なぜこんな目に合わなければいけないのか」と愚痴になつてしまいます。いかに私たちは深い夢の中におり、夢見た自分を自分だと勘違いしているかという事です。そして計画通りにならないと、我が身をつまらないものと

して貶めて落ち込んでしまいます。

私の身は、時代や環境に影響され様々な出来事に会つていきます。その身をあたかも自由に操れるかの如くに考えているのが私です。しかし、この身は業縁ごうえんの身であり、計画通りにならないものです。このことを源信僧都は「我等頭には霜雪そうせつを戴かぶき、心俗塵こころぞうじんに染まば、一生は尽くといえども、希望は尽きず」といわれ、髪の毛は白くなつても名利みまうりを求め続けるならば、生命が尽きても夢を追いかける心は残り、死んでも死にきれないといわれます。

私たちは自分の描いた夢の中にまどろみ、迷い深き身を知ることができません。南無阿弥陀仏の教えは、人生とは自分の計画や夢を超えたものであることを知らしめる法なのです。この目覚めによつて私たちは、はからずも自我の妄執から解放されていく人生をたまわるのです。

(木村 専正 記)

おつとめ

仏説観無量寿経①

『仏説観無量寿経』は、その序分に「王舎城の悲劇」と称される、親子の間で繰り広げられた、骨肉の争いが語られています。

マガタ国の太子である阿闍世あじやせは、提婆達多だいばだたにそそのかされ、父である頻婆娑羅王びんばしらわうを牢獄に幽閉して命を奪い、母親の韋提希夫人いだいけふにんまでも宮中に幽閉することによつて、その手に王位を得ました。

我が子に背かれ囚われの身となつた韋提希夫人は、地位を失い家庭も崩壊してしまいました。憂い憔悴うれしげしきつた韋提希夫人は、苦悩のない世界を求めて釈尊に教えを請います。そして様々な諸仏の国土をご覧になられ、その中から阿弥陀仏の浄土に生まれたいと願われます。

なす術を失つた韋提希夫人は、南無阿弥陀仏の教え以外に自分(凡夫)が救われる道はないのだと、釈尊の説法によつて気づかされていくのです。

(木村 専正 記)



日誌

- 2月11日～15日 本山・第十次聞法推進員養成研修会
(山崎・大橋参加)
- 2月16日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
- 2月20日 婦人会聞法会
- 2月21日 教行信証「信巻」に聞く(第85回)
講師 宗正元師
- 2月22日 東京教区研修会
(新横浜グレイスホテル)
- 2月23日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 岸本住職
- 2月24日 城南ブロック会聞法会
(鶴見公会堂 参加者24名)
- 2月25日 東京教区研修会(横浜市 正円寺)
- 2月26日 仏教青年会座談会
- 2月27日 企画委員会
- 2月27日・28日 宗祖忌
- 3月2日 評議員会定例役員会
混声合唱団「エコー」練習
- 3月3日 城北ブロック会聞法会
(王子 北とぴあ 参加者20名)
- 3月7日 責任役員会・総代会
仏具磨き(参加者8名)
- 3月7日・8日 中興忌
- 3月9日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 木村主任
- 3月12日 仏教青年会レクレーション
(寄席を楽しむ会 参加者24名)
- 3月13日 婦人会聞法会
本山リーフレットに聞く
「こころでほろぶ」



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしまして
ありがとうございます。
ご芳名の掲載をもって
お礼とさせていただきます。

- 岡山県 正覚寺 様
- 川崎市 大西 千鶴子 様
- 栃木県 斉藤 吉郎 様
- 葛飾区 加藤 護 様



掲示板

平成25年4月

- 6日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
12日(金) 午前11時 鎌倉間法会
13日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
16日(火) 午後3時 企画委員会

- 17日(水) 午前11時 婦人会総会
20日(土) 午後1時半 定例間法会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
23日(火) 午後7時 仏教青年会総会
24日(水) 午後1時半 教行信証「信巻」に聞く(第87回)
講師 宗 正元師
27日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 高橋 淳

仏具磨き

去る3月7日春季彼岸を迎えるにあたって、本堂・会館の仏具磨きをご門徒の皆様と一緒に行いました。「自分で磨いた仏具があると、本堂が身近に感じる」と喜ばれている方もいらっしゃいました。今後も続けていきますので、大勢のご参加をお待ちしております。

又、お手伝い頂いた方にはこの場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

(大橋 伊知郎 記)



城南ブロック会

去る2月24日(日)、横浜市鶴見公会堂におきまして間法会を開催しました。参加者は24名で、初めて参加される方もおられ、会員の皆様と楽しく交流を深めておられました。

次回は5月19日(日)に「大井町きゅりあん」にて開催します。皆様お誘い合わせの上お気軽にご参加下さい。
(大橋 伊知郎 記)

城北ブロック会

去る3月3日、王子北とびあにおきまして、間法会を開催しました。総勢20名の参加のもと、「正信偈」のテキストをもとに皆さんと共に親鸞聖人のみ教えを聴聞しました。

次回は6月16日(日)、「川口リリア」にて総会・間法会を開催します。皆様お誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。
(蓮井 邦宗 記)

仏教青年会レクレーション

去る3月12日(火)に仏教青年会レクレーションを行い、今回は浅草演芸ホールにて寄席を観覧いたしました。いつもお越しになる会員さんや親族の方など、合計24名で古典落語や歌謡漫談などを楽しみました。

(高橋 淳 記)

編集後記

きれいになったお荘厳でお彼岸をお迎えしようと、ご門徒の方々にも協力していただき仏具磨きを行いました。皆さん、とても張り切ってお手伝いいただき、本堂の椅子や窓ガラスの掃除までしてくださいました。

仏具を磨きながら日頃の生活について語り合い、お昼は一緒にカレーライスを食べました。短い時間ではありましたが、和気藹々と楽しいひとときを過ごすことができました。
(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>